

平成24年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート

学校名	岡山工業高校												
事業名	111プロジェクト「未来科学棟(仮称)」との連携に向けて ～生徒主導型体験プログラムの開発と試行～												
事業の必要性・テーマ	<p>必要性 本校では、学校で学習した知識・技術等を活用し、生徒の課題解決能力、コミュニケーション能力等を育成する貴重な場として、地域の商店街や公民館等との連携事業に積極的に取り組んできた。 この取組を発展させ、地域連携の中で7つの専門学科の特徴を生かした事業を生徒主体で企画・実施することにより、さらなる学習効果が期待できる。 そこで、平成25年度にオープンする「未来科学棟(仮称)」との連携により、さらに多くの生徒が自ら諸能力を育成する場とするとともに、地域貢献に取り組んでいくためのプログラム開発に取り組みたい。</p> <p>テーマ 本校は昨年度、開校110周年を迎え、多くの周年行事を生徒主体で企画運営し、多くの成果を収めた。 今年度は111年目となる、新たな一歩を踏み出す取組として、「111プロジェクト『未来科学棟(仮称)』との連携に向けて～生徒主導型体験プログラムの開発と試行～」をテーマとした。</p>												
事業の概要・進め方	<p>事業の概要 「未来科学棟(仮称)及び本校施設等での生徒主導型体験プログラムの開発と試行」 ・UD整備事業エコ広場「ラグタイム・ソーラーパーク」の整備を通じた、生徒の環境・ものづくりに対する知識・技術等の向上及び、取組を生かしたプログラムの開発と試行 ・世界最高水準である集光型太陽光発電システム実証試験施設「京山ソーラー・グリーン・パーク」との連携における太陽光発電の学習と、それを生かしたプログラムの開発と試行 ・現在行っている出前講座等を発展させ、「未来科学棟(仮称)」での実施に向けた生徒主導型体験プログラムの開発と試行</p> <p>事業の進め方 ①全校 100名(専門科同好会各10名 計70名・生徒会執行部20名・その他有志)程度を募集し、教職員を加えた「111プロジェクト委員会」の設置 ②ラグタイム・ソーラーパークの整備 ・スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業で得られた技術や、企業関係者からの指導も受けながら、委員会が中心となって設計・製作・施工を実施 ③太陽光発電の学習 《産総研講師による講演》年間2回(5月、10月) 《京山ソーラー・グリーン・パーク見学等》5月(講演後)～ 随時 ④生徒主導型体験プログラムの開発と試行 ・取組内容をもとに、生徒主導型体験プログラムを生徒が主体となって開発し、出前講座や校内外のイベント等で試行 ・委員会による取組の成果発表会 等</p>												
達成目標	<p>本事業実施によって達成したい目標(項目)・数値目標・教育振興基本計画との関連</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">達成目標(項目)</th> <th style="text-align: center;">数値目標及び教育振興基本計画との関連</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太陽光発電に関する知識の定着及び環境教育への意識向上</td> <td>【全校生徒 960名】 → 確かな学力の向上(エネルギー・環境教育の推進)に向けて</td> </tr> <tr> <td>企画・提案・発表のできる生徒の育成</td> <td>委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 子どもたちの夢や目標の実現に向けて</td> </tr> <tr> <td>ものづくりに関する高度な知識・技術の向上</td> <td>委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 確かな学力の向上(科学技術教育の推進)に向けて</td> </tr> <tr> <td>習得した知識・技術を生かした地域貢献活動(「未来科学棟(仮称)」等との連携)</td> <td>委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 確かな学力の向上、豊かな心・社会の形成者としての自覚・地域を大切に作る心の育成に向けて</td> </tr> <tr> <td>出前授業やラグタイム・ソーラーパーク(地域の交流拠点として)での活動回数の増加</td> <td>未来科学棟(仮称)での活動を見据えて、地域の小・中・高校生・住民等を対象にした出前授業やイベント等の実施【毎月1回以上】 → 夢や目標の実現、社会の形成者としての自覚・地域を大切に作る心の育成に向けて</td> </tr> </tbody> </table> <p>本事業をもとに、創立111年目を迎えた岡山工業高校は「未来科学棟(仮称)」等と連携した「未来に向かって羽ばたく工業高校」を目指します。</p>	達成目標(項目)	数値目標及び教育振興基本計画との関連	太陽光発電に関する知識の定着及び環境教育への意識向上	【全校生徒 960名】 → 確かな学力の向上(エネルギー・環境教育の推進)に向けて	企画・提案・発表のできる生徒の育成	委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 子どもたちの夢や目標の実現に向けて	ものづくりに関する高度な知識・技術の向上	委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 確かな学力の向上(科学技術教育の推進)に向けて	習得した知識・技術を生かした地域貢献活動(「未来科学棟(仮称)」等との連携)	委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 確かな学力の向上、豊かな心・社会の形成者としての自覚・地域を大切に作る心の育成に向けて	出前授業やラグタイム・ソーラーパーク(地域の交流拠点として)での活動回数の増加	未来科学棟(仮称)での活動を見据えて、地域の小・中・高校生・住民等を対象にした出前授業やイベント等の実施【毎月1回以上】 → 夢や目標の実現、社会の形成者としての自覚・地域を大切に作る心の育成に向けて
達成目標(項目)	数値目標及び教育振興基本計画との関連												
太陽光発電に関する知識の定着及び環境教育への意識向上	【全校生徒 960名】 → 確かな学力の向上(エネルギー・環境教育の推進)に向けて												
企画・提案・発表のできる生徒の育成	委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 子どもたちの夢や目標の実現に向けて												
ものづくりに関する高度な知識・技術の向上	委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 確かな学力の向上(科学技術教育の推進)に向けて												
習得した知識・技術を生かした地域貢献活動(「未来科学棟(仮称)」等との連携)	委員会メンバーを中心に【全校で100名以上】 → 確かな学力の向上、豊かな心・社会の形成者としての自覚・地域を大切に作る心の育成に向けて												
出前授業やラグタイム・ソーラーパーク(地域の交流拠点として)での活動回数の増加	未来科学棟(仮称)での活動を見据えて、地域の小・中・高校生・住民等を対象にした出前授業やイベント等の実施【毎月1回以上】 → 夢や目標の実現、社会の形成者としての自覚・地域を大切に作る心の育成に向けて												

平成24年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

実績と成果	<p>本事業は、事業の概要で示した3つの内容を中心に、創立111年目を迎えた本校が「未来に向かって羽ばたく工業高校」を目指して取り組んできた。上で示した項目ごとに成果をまとめると、次のとおりである(おもな実施経過は別紙参照)。</p> <p>①プロジェクトメンバー 当初予定は100名であったが、5月11日に164名でスタートし、最終的に193名となった。</p> <p>②ラグタイム・ソーラーパークの整備 全国産業教育フェアの準備等により施工時期は遅れたが、他事業で得られた技術を生かしたり企業関係者からの指導を受けたりしながら、7科連携によるメッセージボード等を完成させることができ、「ものづくりに関する高度な知識・技術の向上」を達成することができた。</p> <p>③太陽光発電の学習 6月に産総研講師による講演を実施し、太陽光発電に関する知識を高めるとともに、10月には京山草刈り活動に参加するなど、環境への意識向上を図ることができた。</p> <p>④生徒主導型体験プログラムの開発と試行 取組内容を元に、生徒主導型体験プログラムを生徒が主体となって開発し、来年度オープンする「人と科学の未来館『サイピア』」との連携に向けたマニュアルを作成中(2月中旬完成予定)である。</p> <p>全体を振り返ると、意欲的に活動しようとする姿勢を持った生徒が増え続け、最終的に全校生徒の2割がメンバーに達するなど、校内でのプロジェクトへの認知度の高まりとともに、全校生徒への中間・年度末報告会の実施など、学校挙げて創立111年目を盛り上げようとする気運が高まった。とりわけ、岡工祭(文化祭)終了直後に、2年生有志4名が名乗りを上げ、来年度の岡工祭でラグタイム・ソーラーパークを活用した催しを企画・運営するための実行委員会が立ち上がるなど、本プロジェクトの目標の一つである「企画・運営・発表のできる生徒の育成」が目に見える形で成果として表れた。</p>	達成率 90 %
今後の課題	<p>来年度オープンする「人と科学の未来館『サイピア』」との連携に向けたマニュアルの完成後は、生徒主導型体験型プログラムの実施に係る調整に入り、来年度の主体となる現1、2年生への周知を図るとともに、生徒・教員による協力体制の確立を進めたい。</p> <p>また、「ラグタイム・ソーラーパーク」については、来年度以降も、課題研究等の授業や専門科同好会の活動を通して、太陽光発電に関する知識・技術も活かしながら継続してバージョンアップに取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>さらに、今年度まで3年間研究に取り組んできたスーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業等の成果も活用しながら、地域貢献を推進し、より開かれた学校づくりを進め、生徒がいきいきと主体的に活動する岡工の伝統を積み重ねていき、目標である「日本一の工業高校」に近づいていきたい。</p>	

平成24年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

学校自己評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	次年度以降の継続性	「人と科学の未来館『サイピア』」と連携しながら、生徒主導型体験プログラムを実施したい。また、「ラグタイム・ソーラーパーク」の整備も学校経営予算(基本枠)を活用して継続したい。
主管課評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	見直しの余地 改善提案等	<p>取組の中で、プロジェクトメンバーが全校生徒の約2割に達し、2年生が来年度の文化祭に向けて自主的に実行委員会を立ち上げたりするなど、中間評価で当課がさらに求めた「企画・提案・発表のできる生徒の育成」が期待通り行われている。</p> <p>また、生徒のアイデアによるソーラーパークの整備や、体験型プログラムのマニュアル化なども完成しつつあり、来年度からの活動に生かせる土台を固めることができている。</p> <p>来年度以降、サイピアでの活動の充実を図られたい。</p>
委員評価	5段階評価	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
	指摘・指導・助言	<p>この事業を学校全体の取組として捉え7科が連携して取組を進めた点を評価したい。また、生徒たちの活動を中心に据えたことで、彼らが主体的に行動し、この取組を通じてものづくりに関する実践的な知識や技能を身に付け、さらに、地域貢献やプレゼンテーションにおいてしっかりと力をつけている点を高く評価したい。</p> <p>一方で、主たる取組(メッセージボードの製作)以外についてはさらなる波及効果を期待したい。とくに学科を越えた生徒同士の意識レベルでのつながりや協力・連携が一層深まることを期待したい。</p> <p>また、来年度以降も本事業の成果を生かして、継続的な取組として充実させていただきたい。特に、サイピアとの連携・活用を進め、自分たちが学んでいることの発表の場として活用できるようしっかりと取り組んでいただきたい。</p>